

2020 年度前期大学院

授業科目

ケースプロジェクト研究（2 単位）_オンライン

担当教員

教授 栗木契 kuriki@kobe-u.ac.jp, 准教授 宮尾学 miyao@rabbit.kobe-u.ac.jp

I. ケースプロジェクト研究のねらい

プロジェクト方式とは、神戸大学 MBA が試行錯誤のなかで編み上げてきた体験型の総合学習です。ビジネスの現実を前に、情報の収集と分析、解釈を通じて、ヒト・モノ・カネにわたる経営の諸機能を見据えたインプリケーションを、プロジェクト管理とチームビルディングを行いながら導き出す。この総合的な体験型学習を通じて、神戸大学 MBA に入学した学生たちは、経営の実践能力を高めていきます。

プロジェクト方式のねらいは、変革型リーダーに求められる基本能力の養成です。神戸大学 MBA がめざしてきたのは、日々の課題への小手先の処理に終始するのではなく、時代に立ち向かう大きなシナリオを描きつつ、実践につなげていく活動を、チームワークのなかで遂行していくことができる人材の育成です。

プロジェクト方式の醍醐味は、無から有を生み出す知的プロセスの体験だと言えるでしょう。プロジェクト方式においては、教室での受け身の講義に参加するのではなく、自ら無知の暗闇に立ち向かい、そこに光を照らそうと葛藤する中で、アプローチから論証の仕方までを全て自分たちの頭で考え抜き、権限関係のない混成チームに参加しながら、課題解決を成し遂げていかなければなりません。この体験は、皆さんに変革型リーダーとしての大きな自信をもたらし、そのプロセスでは、つぶしの効く技の習得も発生するでしょう。

教授陣も指導や助言をしますが、解決の主役はあくまでも自分自身と捉えてください。この主体性がなければ、企業の中核で役に立つ人材にはなれません。プロジェクト方式は、研究に基礎をおいた Research-based Education の一環でもあります。今後自ら研究に手を染める機会となる、修士論文の執筆に向けた最大の教育体験としてください。

この科目（ケースプロジェクト研究）は、神戸大学 MBA のプロジェクト方式の科目の中の導入としての役割も担っている重要な科目です。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、MBA プログラムはオンラインでの実施を余儀なくされています。オンラインでプロジェクト方式の良さを発揮するにはどうすればよいか、われわれ教員も試行錯誤

の最中にありますが、2020年度のケースプロジェクト研究は以下の手を打つことで、プロジェクト方式の導入としての役割を果たしたいと考えています。

5月30日（土）オンライン開講，8月1日（土）成果報告への日程変更
オンラインでのグループ学習に対応したテーマと課題の設定
オンライン・プロジェクトに対応したサポートと講義の充実

II. 授業のテーマと課題

「シェアリング・ビジネスの可能性と、次なる覇者を読み解く」

2020年度のケースプロジェクト研究では、グループ編成を5月30日に発表します。各グループに与えられる課題は、シェアリング・ビジネスの可能性と、次なる覇者を読み解き、ビジネス機会を提言することです。各グループが選択した産業におけるシェアリング・ビジネスについて、2社以上の事例を報告し、当該産業における次なる覇者と、そこに潜在するビジネス機会を提言することを課題とします。

シェアリング・ビジネスについては、近年多くの考えが提唱されてきました。この授業では、國領二郎（2017）にならい、シェアリング・ビジネスを、「情報技術を活用して資産を多くのユーザーで多重活用するビジネス」と定義します（「トレーサビリティとシェアリングエコノミーの進化」、『研究 技術 計画』、第32巻、第2号）。

各種の資産を多くのユーザーで共同活用するという意味でのシェアリングは、古くからある経済です。たとえば銭湯、レンタルビデオ、図書館、さらには中世の村落共同体の入会地などは、ひとつの資産を共同で使い回していく経済であり、これらをシェアリングエコノミーに含める考えもあります。

2010年代になってシェアリングという概念は、広く社会の注目を集めるようになります。これは、従前からの共同利用の経済の可能性が、情報の通信と処理にかかわる技術が急発展するデジタル時代を迎えて、新たに各所で拡大しはじめたからです。デジタル時代になって登場したシェアリングの事例には、たとえばメルカリ、タイムズ・カーシェア、アマゾンプライム・ビデオ、エア・ビーアンドビー、ウーバー・イーツ、ウィキペディア、リナックスなど、枚挙にいとまがありません。

デジタル時代に入り、社会におけるシェアリングの可能性が広がっています。そのなかでの各種の産業におけるシェアリング導入の可能性は、以上に挙げた事例に尽きるわけではありません。自動車、家電、服飾品、情報サービス、ワーキングスキル、不動産、オフィス機器、製造装置等々、所有型の経済を前提に展開されていたモノやサービスの利用が、各所でシェアリング型の利用にシフトしはじめています。

ここに2020年のコロナ禍により一変した社会生活が、どのようなかたちで拍車をかけるか。予断を許さない状況が広がっています。

2020年度のケースプロジェクト研究では、各グループが、このシェアリング・ビジネスがもつ今後の可能性をにらんで、研究対象とする産業を選択します。どの産業を選択するかは各グループの判断ですが、最終発表の評価に大きく影響する重要な判断であることに注意し、慎重に選択を行って下さい。その上で各グループには、当産業における2社以上の実在事例を、ライブラリ・リサーチを通じて情報収集し、それらのビジネス上の可能性を分析し、検討していくことが求められます。

最終発表では、①当該産業におけるシェアリング・ビジネスの可能性とともに、②当該産業における次なる覇者の読み解き、③そこに列なる新たなビジネス機会を提示してもらいます。最終発表までのスケジュール管理は、各グループに委ねられます。

思わぬ事態のなかで、ケースプロジェクト研究のグループという、同じ船に乗りあわせた仲間と嵐のなかの航海をいかに乗り切っていくか。この課題に挑む経験は、皆さんの各種のビジネス能力を高めることにつながるはずです。オンラインでのプロジェクト研究がどこまで可能かに、皆で挑戦していきましょう。

III. 参考図書

井上達彦（2019）『ゼロからつくるビジネスモデル』東洋経済新報社

内田和成（2006）『仮説思考』東洋経済新報社

R. ボッツマン， L. ロジャース（2010）『シェア』NHK出版

三品和広，山口重樹（2019）『デジタルエコノミーと経営の未来』東洋経済新報社

J. リフキン（2015）『限界費用ゼロ社会』NHK出版

『シェア』と『限界費用ゼロ社会』は、デジタル時代にあって、シェアリングが社会のもたらす可能性を、背景を掘り下げて考える手がかりとなるでしょう。『デジタルエコノミ

一と経営の未来』は、情報技術がビジネスを変えると、時代の問題を広い視野で考える道筋を示しています。

『仮説思考』は、プロジェクト研究において仮説を構築し、提言を練り上げていく思考方法の構築を支援するでしょう。『ゼロからつくるビジネスモデル』は、各種のシェアリングの事例をビジネスモデルとして評価し、その可能性を判断する上で役立つでしょう。

IV. 授業計画

以下に示すのは、クラス全体の共通の予定です。それ以外の各週末・週間については、グループごとに活動をマネジメントし、プロジェクトをぐいぐいと進めていってください。

1. オリエンテーション (5/30)

テーマとグループ編成を確認した上で、ケースプロジェクトを進める上でのポイントを説明します。シェアリングエコノミー、ビジネスモデルなど、ケースプロジェクトの前提となる知識、そしてライブラリ・リサーチの方法について説明する予定です。

1 時限：テーマと課題の説明

2 時限：ビジネスモデル

3 時限：財務データの読み方

4 時限：ライブラリ・リサーチの方法

5-6 時限：グループワーク

Zoom を使用して開催します。

URL 等を変更しました。新 URL 等は BEEF で確認をするようにして下さい。

2. グループワーク (6/6~7/25)

グループごとのケースプロジェクトの推進については、Zoom、Skype などの各種のオンラインミーティング・サービスを活用しながら、各グループで管理して下さい。オンラインミーティングのコアタイムは 6/6~7/25 の毎週土曜日 19:00~20:30 としますが、毎週のミーティングの開催時間はグループの判断で変更をしても問題ありません。6/13~6/27 の期間に各グループとのオンライン面談を担当教員が順次行います。コアタイムに限らない Beef での質問には、教員が随時対応します。

3. 研究成果発表会 (8/1)

各チグループが、研究成果をぶつけあう最終決戦です。各グループは研究成果を担当

教員の前で報告してください。持ち時間は 20 分です。現時点ではオンライン発表会を予定しています、神戸大学 MBA 教員による評価は、上記①～③の問いに対する答えの独自性、答えを導いくロジックの緻密さ、それらを支えるエビデンスの的確さにもとづいてなされます。発表順番は事前のくじ引きで決定します。

4. 内省レポート (8/15)

この日を締め切りとして、個人内省レポートを **Beef** より提出してください。このレポートで問われるのは、皆さんがケースプロジェクトの全体を通して何を学んだかの深い内省です。5000 字をレポートの上限分量とします。

V. 成績評価

研究成果発表会での所属グループへの評価が 5 割、個人内省レポートへの評価が 5 割のウェイトで成績判定を行います。